

西之表市埋蔵文化財発掘調査事業報告書

馬毛島葉山王籠遺跡
発掘調査事業報告書
(埋葬人骨取り上げ調査)

2019年3月

鹿児島県西之表市教育委員会



馬毛島葉山王籠遺跡位置図及び発掘調査地

I 調査の経過

1. 調査に至る経緯

平成30年10月31日・11月1日、厚生労働省（以下厚労省という）は西之表市馬毛島にて、戦没者遺骨収集調査を行なった。調査には、西之表市教育委員会社会教育課文化財係（以下市教委という）をはじめとする西之表市職員も同行し調査に協力した。調査対象地は、島内の4か所、深浦・池田小屋・高瀬・住吉小屋と呼ばれる地区が対象であった。

調査の結果、池田小屋調査地から土器片約80点と300点をこえる人骨片、さらに、1体の完全な人骨が発見された。また調査対象地の掘り下げ調査時においても、人骨片と土器片さらに貝類をはじめとする自然遺物が発見された。

厚労省と市教委は現地ですべての人骨の対応について協議し、人骨の埋葬状態（強度の屈葬）から人骨が文化財の範疇である可能性もあり、今回取り上げは行わず、厚労省が年代測定のために一部のわずかな骨片を採取した後、埋戻し現況に復した。

市教委は、発見された土器片が古墳時代の上能野式土器と呼ばれるものと判断し、遺物の出土状況から当地が遺跡であると判断した。人骨片については、厚労省が行なう年代測定の結果を受けて、その後の対応を判断することとなり、一時的に市教委が全ての人骨片を種子島開発総合センターにて保管することとなった。土器片については、市教委が文化財保護法に基づき、適切に対応することとした。自然遺物類については、現況に復した。発見された1体分の完全人骨については、埋戻しの際、砂を土饅頭状に盛り上げ、その位置が分かるよう周囲に土のうを配置し、保存・保護を図った。

調査後、市教委は鹿児島県教育委員会（以下県教委という）に遺跡の発見について通知を行い、人骨・土器片が出土した地は、馬毛島葉山王籠遺跡（以下王籠遺跡という）として周知の埋蔵文化財包蔵地となった。

平成31年1月、厚労省より人骨の年代測定の結果報告があり、発見された全ての人骨の時代は、15世紀（室町時代）から19世紀前半（江戸時代後期）のもので、文化財としての範疇であり、戦没者ではない事が確定した。このため、厚労省は池田小屋で発見された全ての人骨の取り扱いについて、市教委に一任し、市教委は人骨を文化財保護法に基づき、適切に対応することとした。人骨の年代測定の結果を受け、厚労省は馬毛島での戦没者遺骨収集調査を終えることとなった。

平成31年1月頃に、人骨を埋め戻した場所の現況が変化しているとの情報があったため、現況確認のためと遺跡の範囲を把握する目的で、土地所有者の協力を得て、平成31年2月20日、市教委が調査主体となり王籠遺跡の埋め戻した人骨等の現況調査を行った。

2月20日の現況調査には、馬毛島での厚労省戦没者遺骨収集調査時に参加した、人類学（古人骨）専門家の鹿児島女子短期大学竹中正巳教授と南島の墓制に詳しい鹿児島大理

蔵文化財調査センター新里貴之助教を市教委が招聘し、調査に参加していただき指導助言を受けた。

「平成31年2月20日 現況調査参加者」8名

西之表市教委	社会教育課参事	沖田純一郎	社会教育課	文化財係長	鮫島 斉
西之表市	財産監理課長	奥村 裕昭			
	歴史文化活用係長	柳田さゆり	主事	荒河 翼	
西之表市文化財保護審議委員	尾形 之善				
鹿児島女子短期大学	教授	竹中 正巳			
鹿児島大学埋蔵文化財調査センター助	教	新里 貴之			

現況調査の結果、遺骨収集調査時と比較し、当該地は風の影響で地形がかなり変化していることが判明した。そのため、人骨が埋葬されている地にも影響がでていた。また、人骨埋葬地は満潮時の海岸線から約30mの距離に位置しているため、今後風・波の影響で埋葬されている人骨は滅失する可能性があるかと判断した。また、現地を踏査した結果、遺跡の範囲が南側にいくらか広がることも確認された。人骨埋葬地については、再度土のうを積み直し、保存・保護を図った。

現況調査の結果に基づき、市教委は王籠遺跡の範囲変更(範囲拡大)を県教委へ通知した。また、文化財係は市長・教育長等と人骨の取り扱いについて協議を行ない、文化財の保存保護を図るため、発掘調査を行い、人骨の記録保存と取り上げを行うこととなった。

発掘調査は、対象が人骨であり専門知識を要するため、現況調査時に招聘した竹中教授と新里助教に再度参加、協力していただくこととなった。

埋葬人骨の発掘調査は平成31年3月11日、3月12日に行った。(調査日数2日間)

2. 調査の組織

発掘調査主体者	西之表市教育委員会				
発掘調査企画担当	西之表市教育委員会	社会教育課	課長	松下 成悟	
	〃	〃	参事	沖田純一郎	
発掘調査参加者	西之表市教育委員会	社会教育課	参事	沖田純一郎	
	〃	〃	文化財係長	鮫島 斉	
	〃	〃	主事	吉元 伸一	
	西之表市	財産監理課	課長	奥村 裕昭	
	西之表市	企画課	主事	荒河 翼	
発掘調査指導協力	鹿児島女子短期大学	教授	竹中 正巳		
	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター助	教	新里 貴之		

II 調査の概要

1. 調査の経過

発掘調査は、平成31年3月11日（月）と3月12日（火）に実施した。両日とも波が高く、馬毛島行きが困難と思われたが、出港地を西之表港から住吉港へ、出港時間を変更するなどして対応し、無事馬毛島へ渡ることができたが、馬毛島行の船は相当揺れた。

平成31年3月11日（月） ※船舶 福見丸

- 13時30分 住吉港発（当初は、午前8時、西之表港発としていたが、波が高く変更した）
- 14時00分 馬毛島 葉山港着、発掘調査地へ移動
- 14時15分 発掘調査開始（人骨検出、実測作業・地形測量・池田小屋古石塔確認作業）
- 16時40分 発掘調査終了
- 17時00分 馬毛島葉山港発
- 17時30分 住吉港着

平成31年3月12日（火） ※船舶 すみ丸

- 8時10分 住吉港発
- 8時45分 馬毛島 葉山港着、発掘調査地へ移動
- 9時00分 発掘調査開始（人骨実測、取り上げ、人骨下層確認、地形測量）
- 14時10分 発掘調査終了
- 14時30分 馬毛島 葉山港発
- 15時00分 住吉港着

2. 調査方法

調査は、完全人骨1体分の記録保存・取り上げを目的とし、慎重に人骨を検出した後、埋葬状態の記録保存（実測）を行い、その後、人骨を丁寧に取り上げた。

また、埋葬地の位置を記録するため、周辺の地形測量も行った。さらに、埋葬地の近くに砂に埋没した古石塔が3基あり、この古石塔の実態を確認するため古石塔周囲を掘り下げ、確認作業を行った。この古石塔の確認作業は、奥村課長・荒河主事が主に行なった。

3. 層位

調査地の基本的な層序は以下のとおりである。場所によって、一部砂採取が行なわれ、地形が変化しているところが見られた。

- I 層 白色砂層（表土）
- II 層 黄茶褐色砂層
- III 層 黒褐色砂層

4. 調査の概要

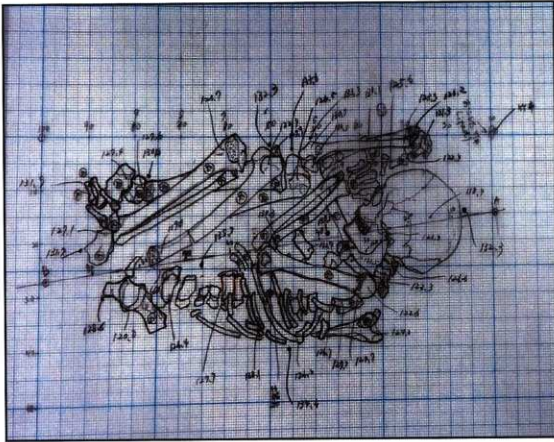
人骨埋葬地周辺を慎重に掘り下げ、人骨を検出した後、竹中教授が埋葬状態の実測作業を行った。実測・写真撮影後は、人骨を各部位ごとに丁寧に取り上げた。人骨取り上げ後人骨が埋葬されていた下位を慎重に掘り下げ、土壌掘り込みラインの有無を精査したが、掘り込みラインは確認することができなかった。人骨は側臥の強度な屈葬で、頭を北東に向け埋葬されていた。副葬品は見られなかった。調査面積は約4㎡である。

竹中教授の現場での所見によると、

- ①人骨は30代の男性
- ②身長は155cmほど
- ③上半身の筋肉が発達していたと思われる
- ④左手の甲が骨折しているが、自然に治癒している。ただし、この骨折の影響で左手には、後遺症があったのではと考えられる
- ⑤左右のひざや背骨の状態から関節炎を患っている
- ⑥「親知らず」が確認される・・・などがわかり

黒褐色砂層上面まで埋葬のための土壌を掘り、埋葬していたことがわかった。

また、人骨検出地下層の黒褐色砂層には貝類を主とし魚骨や土器片などが、確認された。その状態から、この黒褐色砂層は貝塚を形成している層であることがわかった。



人骨実測図速報 (作図 竹中教授)

5. 調査の成果と今後の措置

(成果)

①人骨の埋葬状態の記録をとり、取り上げることができた。年代測定の結果は中世から江戸時代後期とされているが、埋葬状態及び島内の遺跡の類例から、中世のものと推定した。

②南九州でも数少ない古人骨の発見は、今後の研究を進めていくうえで、貴重な資料となった。

③発掘調査によって、埋葬址の下層に古墳時代の貝塚が確認され、その範囲は広範囲に及ぶことがわかった。

④埋葬址は、砂採取によりその大部分が消滅していることがわかった。

⑤池田小屋の古石塔は当初3基確認されていたが、今回の調査で合計6基確認された。古石塔は移動されている可能性があり、石材は山川石(3基)、加治木石(3基)で製作されていたことが新たにわかった。今回の調査では古石塔の年代を特定することはできなかった。

(今後の措置)

①人骨は鹿児島女子短期大学竹中教授により詳細な調査が行われることになっている。調査後、人骨は西之表市教育委員会が保管し、公開・活用していく。

②埋葬址は大部分が滅失していると思われるが、一部残存している可能性もある。また埋葬址下層に存在する古墳時代の貝塚は良好に保存されている。埋葬址及び貝塚の範囲・性格を把握するため、試掘確認調査の実施計画を立て、埋蔵文化財の保存保護を行っていく。

平成31年3月29日

報告者 西之表市教育委員会

社会教育課 参事 沖田純一郎



No. 1

平成31年3月11日

13時30分 住吉港発

14時00分 葉山港着

17時00分 葉山港発

17時30分 住吉港着



No. 2



No. 3



No. 4



No. 5



No. 6



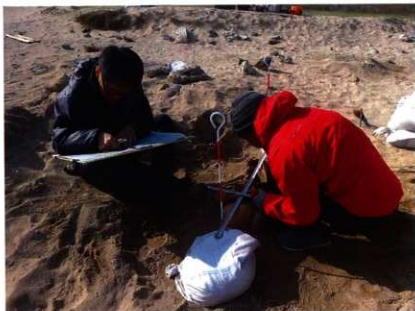
No. 7



No. 8



No. 9



No. 10

平成31年3月12日

8時10分 住吉港発

8時45分 葉山港着

14時30分 葉山港発

15時00分 住吉港着



No. 11



No. 12



No. 13



No. 14



No. 15



No. 1

平成30年(2018年)11月1日

馬毛島 池田小屋周辺

厚労省による

戦没者遺骨調査にて

発見された人骨



No. 2



No. 3



No. 4



No. 5



No. 6



No. 7



No. 8



No. 9



No. 10



No. 11



No. 12



No. 13



No. 14



No. 15



No. 16



No. 17



No. 18
